



山内中学校だより

学校教育目標 - 夢と誇りをもち 自ら学び 仲間とともにしなやかに伸びる生徒の育成-

自ら求めて 前進!!

第8号 2025.8.27

文責：校長 山口 信一郎

「山内中学校平和集会」開催

保護者の方も参観可能です!!

都合がつかれる保護者の方は、是非ご参観ください。

日時：9月4日（木）5時間目（13：40 予定）

場所：体育館

※ 暑さ対策のためリモートに変更する可能性もあります。

その場合は、コミュニティールームを開放します。

※ 「すぐ〜る」でもお知らせします。

生徒会メンバーの
準備風景写真 ①

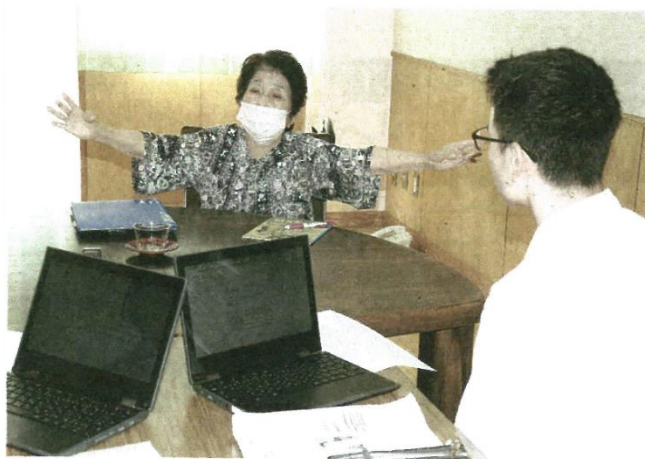
生徒会メンバーの
準備風景写真 ②

平和集会では、インタビューの内容を編集して放映します。
夏休み中に、生徒会メンバーが動画編集やスライド作成を頑張ってくれました。

平和集会に向けて生徒会のメンバーが、山内町の体験者の方（杉原啓子さん）に
インタビューしている様子を取材していただきました。

R7.8.5 (火) 佐賀新聞

長崎原爆のこと、教えてください



杉原啓子さん（左）に被爆や戦争について尋ねる大渡慈恵さん＝
武雄市山内町の山内中

戦後
80年
さが

杉原さんは、父が勤務
していた三菱兵器の社宅
（長崎市岩屋町、爆心地
から3キロ）で被爆した。
生徒には、家族全員が倒

杉原さんが被爆体験を
み、取材を申し込んだ。
語った佐賀新聞の聞き書
き企画「つなぐ 戦後80
年さが」を生徒会長の太
渡慈恵さん（3年）が読
ら、生徒会役員4人で体
験談を聞いた。

【武雄市】 山内中（武雄市山内町）の生徒会役員
が7月30日、長崎原爆で被爆した同町の
杉原啓子さん（86）にインタビューした。身近な人の
証言に耳を傾けることで、戦争を遠い昔の歴史では
なく、自分に関わる出来事として捉え直した。

山内中生、地元の被爆者を取材

佐賀新聞の記事きっかけ 身近な人の証言、耳傾け

壊を免れた社宅の中に
て難を逃れたこと、両親
の実家がある武雄市武内
町に避難する際に遺体や
けが人を数多く見たこと
を伝えた。戦禍に遭った
は、姉妹で山や町を回っ
た楽しい思い出があった
ことも紹介した。

被爆者であることを明
かした理由を問われる
と、「偏見を恐れてきた
が、言葉が出るうちに話
したいと思った」と胸の
内を語った。

杉原さんは取材後、「少
しでもためになるなら。
今、戦争が近づいている
気がする。あんなばかな
ことをしてはいけない」
と話した。大渡さんは「映
画や本、資料館と違い、
生の声を聞くことで恐ろ
しさが伝わった。祖父の
知り合いだったようで、
身近な人の声を平和集会
で伝えたい」と述べた。

社会科の中島浩太郎教
諭（35）は「広島や長崎、
知覧の平和学習が中心
で、地元の方に話を聞く
ことは少なく貴重な体
験。日々の暮らしのこと
も聞けてよかった」と生
徒の活動を評価した。

（大田浩司）